

サステナ経営検定2級第16回試験問題正答

[2026年5月24日実施] サステナ経営検定委員会/株式会社オルタナ

問題1 「なぜサステナ経営が重要なのか」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

イが不適切。「現代世代の必要性を満たすこと」→「将来世代の必要性を満たすことを犠牲にせず、現代世代の必要性を満たすこと」16ページ

公式テキスト：1-1 なぜサステナ経営が重要なのか

1-3 世界のサステナビリティの流れ

1-5 日本のサステナビリティの流れ

問題2 サステナブル経営の4つの領域に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア 図表1-2：サステナ経営の「4つの領域」11ページ

公式テキスト：1-1 なぜサステナ経営が重要なのか

問題3 「世界のサステナビリティの流れ」に関する次の記述のうち、適切な文章の組み合わせを一つ選べ。

正答：エ 1と4が適切。

1は16ページ

2は「ビジネス・ラウンド・テーブル」→「WBCSD(世界経済人会議)」17ページ

3は「フォアキャスティング」→「バックキャスティング」18ページ

4は21ページ

公式テキスト 1-3 世界のサステナビリティの流れ

1-4 欧州のサステナビリティ戦略

問題4 「日本のサステナビリティの流れ」に関する次の記述で、最も適切なものを一つ選べ。

正答：イ

イが適切 26ページ

アは「・・・考えが広がった。」→「・・・考えは広がらなかった」26ページ

ウは「EU」→「日本」27ページ

エは「全企業」→「時価総額3兆円以上のプライム市場上場企業」27ページ 134ページ

公式テキスト：1-5 日本のサステナビリティの流れ

5-2 統合報告の国際的な流れと日本国内の動き

問題5 日本の「中小企業のサステナ経営」に関する次の記述のうち、適切なものはいくつあるか。

正答：エ

1は15ページ

2、3、は29ページ

4は31ページ

公式テキスト：1-2 サステナ経営に求められる思考と行動

1-6 中小企業のサステナ経営

問題6 「ソフトローからハードローへ」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

「現代奴隷の定義は①奴隷・隷属・強制労働②人身売買の二つである」

→「現代奴隷の定義は①奴隷・隷属・強制労働②人身売買③搾取(性的搾取・臓器提供の強制など)の3つである」35ページ

公式テキスト：1-7 ソフトローからハードローへ

問題7 「パーパス」「グリーンウォッシュ」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ウ

1は37ページ

2は39ページ

3は23ページ

公式テキスト：1-4 欧州のサステナビリティ戦略

1-8 「パーパス」の重要性

1-9 グリーンウォッシュ

問題8 「国連責任投資原則」(PRI)の6原則に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：イ 図表2-4、図表4-2

1と2が適切 45ページ 126ページ

3は、「運用業界」→「投資対象の主体(企業)」45ページ 126ページ

4は、「投資対象の主体(企業)」→「運用業界」45ページ 126ページ

公式テキスト：2-1 ESG総論

4-5 株主・投資家としての責任

問題 9 「脱炭素への流れ」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

アが不適切。「・・・可能である」→「・・・不可能である」 50 ページ

公式テキスト：2-2 脱炭素への流れ

問題 10 「サーキュラーエコノミー」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

アが不適切。「SDGs の「ゴール 14」の目標に合わせ 2025 年とした」

→「2040 年とした」61 ページ

公式テキスト：2-3 サーキュラーエコノミー

問題 11 「生物多様性」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：イ

イが適切。62 ページ

アは 「①自然がきちんと機能するようにすること②2030 年までに量的にも

世界の人口を支えるレベルまで自然を復元させること」→「2030 年までに現在の減少トレンドを逆転させるべく緊急の行動を起こすこと」63 ページ

ウは 「米国政府」→「英国政府」63 ページ

エは 「・・・日本でもすでに厳しい規制制度が予定されており」→

「・・・予定されていない」66 ページ

公式テキスト：2-4 生物多様性・水資源の保全

問題 12 「ビジネスと人権」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

ウが不適切。70 ページ

「日本と欧米が中心」→「欧米が中心」

公式テキスト：2-5 ビジネスと人権

問題 13 日本の「DEI とジェンダー課題」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

アが不適切。

「上場企業」→「全企業」

公式テキスト：2-6 DEI とジェンダー課題

問題 14 日本版「コーポレートガバナンス・コード(CGC)」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

1は78ページ

2は78ページ

3は78ページ

公式テキスト：2-8 コーポレートガバナンス・コード

問題 15 日本の「取締役会/報酬等委員会の在り方」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

エが不適切。81ページ

「法定ではないので、理由の説明は求められない」

→「法定ではないが、合理的な理由の説明は求められる」

公式テキスト：2-9 取締役会/報酬等委員会の在り方

問題 16 「人的資本経営とは」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ

2のみ不適切。「財務指標」→「非財務指標」82ページ

公式テキスト：2-10 人的資本経営とは

問題 17 「ESG と金融界の動き」に関する次の文章の空欄に該当する語句として、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：エ

1は84ページ

2は84ページ

3は86ページ

公式テキスト：2-11 ESG と金融界の動き

問題 18 「サステナ経営(マネジメント) の考え方」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

エが不適切。99ページ

「・・・推奨している」→「推奨していない」

公式テキスト：3-1 サステナ経営(マネジメント) の考え方

問題 19 「マテリアリティの特定」に関する次の記述のうち、最も適切な文章の組み合わせを一つ選べ。

正答：ウ 3と4が適切。1と2が不適切

1は「主張している」→「主張していない」 105 ページ

2は「ダブルマテリアリティ」→「財務的マテリアリティ」 106 ページ

公式テキスト 3-3 マテリアリティの特定

問題 20 「サステナ指標の設定とインパクト評価」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

アが不適切。107 ページ

「インサイド・アウト」→「アウトサイド・イン」

公式テキスト： 3-4 サステナ指標の設定とインパクト評価

問題 21 「ステークホルダー目線の重要性」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

イが不適切。

「企業の視点に立って」→「ステークホルダーの視点に立って」 115 ページ

公式テキスト： 4-1 重要なステークホルダーの視点

公式テキスト： 4-2 サステナ経営における NGO/NPO の役割

問題 22 「NGO/NPO による企業評価」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

エが不適切。

「・・・当該 NGO/NPO との対話を避けるべきである。」→「・・・NGO/NPO に理解してもらうためのエンゲージメントの努力をすべきである。」 122 ページ

公式テキスト： 4-3 NGO/NPO による企業評価

問題 23 国際消費者機構が定義する消費者の8つの権利に該当しないものを一つ選べ。

正答：ア

アが不適切。122 ページ

消費者の5つの権利の一つ「連帯」を参考 123 ページ

公式テキスト： 4-4 消費者の役割/エシカル消費/サステナブル消費

問題 24 ESG 情報の評価機関として、適切なものの組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

2と3が適切。127 ページ

1と4は第一次産業の国際イニシアティブ 34 ページ

公式テキスト 1-7 ソフトローからハードローへ

4-5 株主・投資家としての責任

問題 25 「GRI」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

イが不適切。137 ページ

「GRI スタンドアードの構造は、「共通スタンダード」と「項目別スタンダード」の二つの構造に分かれている。」→「GRI スタンドアードの構造は、「共通スタンダード」「項目別スタンダード」「セクター別スタンダード」の3つの構造に分かれている」 137 ページ

公式テキスト： 5-3 消費者の役割/エシカル消費/サステナブル消費

問題 26

企業や組織がなぜ「グリーンウォッシュ（ウォッシング）」を避けなければならないのか、そのリスクや対応策も含めて、事例や重要事項を書きなさい。（400 字以内）

企業や組織が「グリーンウォッシュ」を避けるべき理由は、組織の信頼喪失・法的制裁・風評被害といった重大なリスクがあるためである。国連のアントニオ・グテーレス事務総長が 2022 年 11 月の COP27 で「グリーンウォッシングは断じて許されない」と訴え、世界的に規制強化が進んだ。特に、新たな化石燃料インフラの建設や投資については「グリーンウォッシュ」であり、「ネットゼロ」とは認めないとした。EU は「グリーンクレーム指令」や不公正商慣習指令改正で、根拠のない環境主張を禁止し、KLM やルフトハンザ、H&M、デルタ航空などは誇張表現で提訴や行政指導を受けた。日本企業の中には生分解性プラ表示で消費者庁措置命令を受けた事例がある。企業は「言っていることとやっていることが違う」と見なされないよう、科学的根拠に基づく情報開示、広告部門とサステナ部門の連携、そして「自律的な自己規制」と透明性が不可欠である。（399 文字）

問題 27

社会課題の解決を起点にした新規ビジネスの創出である「アウトサイド・イン・ビジネス・アプローチ」の意義と、知っている限りの事例を挙げなさい（400 字以内）

「アウトサイド・イン」とは、社会課題の解決を起点に事業を創出する考え方であり、SDGs のビジネス指南書「SDG コンパス」にも記載されている公式のビジネス用語だ。従来の「プロダクト・アウト」や「マーケット・イン」が企業や顧客視点を重視してきたのに対し、アウトサイド・インは顧客の背後にある「社会ニーズ」に目を向けた点が特徴

だ。オムロン創業者の立石一真氏は顧客ではなく「社会のニーズに応えよう」と提唱し、自動改札機や家庭用血圧計を生み出した。ネスレは創業期に乳幼児死亡率の低減を目指してベビーフードを開発し、リクシルは貧困層向けに低価格トイレを展開する。社会課題を起点に新たな需要を創出する発想は、企業規模を問わず成長の鍵となる。マーケティングや研究開発、人材育成など社内のあらゆる業務にこの視点を浸透させることで、社会対応力が高まり、新市場の創出や企業価値向上にもつながる。中小企業にも重要な視点だ。

(399文字)